

解 説



教育・研究機関における品質工学の展開 2018

— 徹底的な資本主義のものづくり教育を目指して —

*Development of Quality Engineering at Academic Research Institutions 2018
— Coherent Education of Manufacturing in Capitalism Societies —*

水谷 淳之介*

Junnosuke Mizutani

山本 桂一郎*

Keiichiro Yamamoto

早川 幸弘*

Yukibiro Hayakawa

第18回品質工学会学校関係者懇談会

開催日 平成30年6月26日(火)

場 所 品質工学会事務局会議室

主 催 品質工学会学校教育委員会

出席者 (五十音順)

青木 昭夫 帝京大学
 河田 直樹 埼玉工業大学
 久米原宏之 (一財)ものづくり研究機構
 小池 昌義 元産業技術総合研究所
 高田 圭 信州大学
 橋原 弘之 九州工業大学
 西田 友久 沼津工業高等専門学校
 西野 精一 阿南工業高等専門学校
 早川 幸弘 富山高等専門学校
 松原 秀之 aesip代表
 宮城 善一 明治大学
 矢野 耕也 日本大学
 山本桂一郎 富山高等専門学校

(司会) 水谷淳之介 富山高等専門学校

司会 この学校関係者懇談会を立ち上げた矢野宏先生は、ぜひ松原秀之氏をこの会に招聘し、品質工学に関わる教員にものづくりについて語ってほしいと話していた。今回ようやく松原氏を招くことができた。まずはじめに松原氏より「企業経営者・技術者から品質工学教育に求めること」について講演をいただき、討論に入りたい。

1. 松原秀之氏の講演要約

1.1 コストダウンはリードタイム短縮が鍵

私は矢野宏先生とは昭和51年ころの計測器関係の品質管理の勉強会からの付き合いである。また、田口玄一先生からも指導を頂いたが、最後まで劣等生だった。しかし、縁があり品質工学の広報係を担ったと思っている。矢野先生とともにずいぶん会社を回った。

私はもっぱら「リードタイム」という言葉で企業内活動をしてきた。リードタイムを議論すれば企業の中の生産活動での利益だとか品質であるとか、もろもろの集中化ができと思っている。会社は利益を上げることが究極の目的である。世の中には航空機産業のように需要よりも供給の方が少ない産業と、われわれ一般の企業のように、需要よりも供給の方が多い産業がある。前者は原価に利益を乗せて売価を決めればよいが、後者の売価は競争で決まるから、利益を得るには原価を下げるしかない。原価を下げるためにいろいろな知恵が必要だ。労務費の単価は電気代のようにどの会社も同じだから、原価は作り方を考えることによって下げるしかない。作り方の改善をしようとする生産部門は人の問題になる。例えば10人で1000個の製品を作っていたとして、注文が減って900個になったら9人で生産できるかということだ。生産量に比例してゴムひものように人の数を増減できるか。これは100社あったとしても99社はできない。だから減産になると会社が潰れる。人の配置がゴムひものようになるよう工夫をすることが生産現場に求められている。

* 富山高等専門学校